

暗唱のすすめ 百人一首編⑳

九十六

はな ウ あらし にわ ゆき
花さそふ 嵐の庭の 雪ならで
み
ふりゆくものは わが身なりけり



入道前 太政大臣
にゆうどうさきのだいじょうだいじん

九十七

こ ひと うら ゆう
来ぬ人を まつほの浦の 夕なぎに
や もしお み
焼くや藻塩の 身もこがれつつ



権中納言 定家
ごんちゆうなごんさだいえ

九十八

かせ おがわ ゆうぐ
風そよぐ ならの小川の 夕暮れは
なつ
みそぎぞ夏の しるしなりける



従二位家隆
じゆにいいたか

九十九

ひと お ひと うら ジ
人も惜し 人も恨めし あぢきなく
よ おも エ ものおもウみ
世を思ふゆゑに 物思ふ身は



後鳥羽院
ごとばいん

百

ふる のきは
ももしきや 古き軒端の しのぶにも
オ
なほあまりある 昔なりけり
むかし



順徳院
じゆんとくいん